

「出会いは人を変え、人生を変える」

# 校長だより

平成31年2月7日(木)

第25号

「我が子を入れたくなる学校をつくりたい」(初代校長) 那覇西高等学校長 長濱 雅仁  
「いつも太陽の光に顔を向けていれば、影を見ることはありません」 - ヘレンケラー -

” Once we share goals, we are all brothers and sisters ! ”

率先垂範：子どもは親や教師の「言う通り」にはならないが「する通り」になる。

師弟同行：価値観は言葉以上に、実行している人の姿によって伝えられる。 以上渡辺和子氏

**第28回卒業式まであと22日!** 30期生の皆さんは平成最後のラストランナーですよ!

## ◇学校行事、大会結果、イベント等

- 平成30年度第54回九州高等学校ハンドボール選抜大会が2月8日(金)～10日(日)熊本県で開催されます。県大会では全国高校総体準優勝の浦添商業高校を見事破り、優勝しました。比嘉顧問の話では、「調子が上向いてきているので、大会が楽しみです」とのこと。「勝(律)んだジョー」ちなみに10月に出張した時のこと。駅のホームに「熊本城 立つんだ ジョー」の文字が・・・。
- 校内外の小さな変化・成果に皆さん、気がつきましたか？
- ・いよいよ卒業式目前です。体育館から大きな声が響き渡ってきます。「熊の鼓動」も・・・、うう!

## 卒業式式辞(校正中)

校庭の木々に若葉が芽吹き、日に日に春の訪れが感じられるよき日に、徳田恭紀PTA会長、豊川博史同窓会会長、学校評議員の神村孝司様、名嘉ゆり子様、藏根美智子様、金城孝忠様、多和田聡子様、多数の来賓のご臨席の下、第30回卒業式を挙げていくことは、大きな喜びであり、心からお礼申し上げます。

また、平成最後となる記念すべき年に晴れの卒業式を迎える30期生の皆さん、卒業おめでとう。

私は皆さんと3年前に出会いました。始業式、校長講話等機会あるごとに「基本的生活習慣の確立を中核に据えた学校をつくりたい」「自らを鍛えるとは、規則正しい規律ある生活を送ることである」「社会で通用する有為な人材になろう」「努力という河を渡らなければ栄光という向こう岸には辿り着けない」「チーム那覇西、夢と徳の欠片を3年間拾い続けよう」等、皆さんに熱く語り続けてきました。

体育祭や文化祭では生き生きとした元気な姿を、部活動では技能、精神力の鍛錬に躍動感あふれる姿を、そして、図書館、自習室等では自己実現に向けて必死に取り組む姿を見ることができました。とりわけ、遅刻、欠課など勤怠状況の改善には目を見張るものがありました。学校行事、部活動、授業等を通して「さすが、那覇西高生」と頼もしく思う場面にも何度も出会いました。

ところで、今、卒業を目の前にしてあなたの脳裏に去来しているものはどのようなものですか。

毎朝、横断歩道の上で「あと何秒、走らないと遅刻するよ」と檄を飛ばしてくれた先生。

「やったな。解けたじゃないか。やればできるぞ」と学びの心に火を灯してくれた先生。

「自分に負けるな。継続せよ」と師弟同行で朝夕いつも寄り添ってくれた顧問の先生。

ミスして弱さになった時、「大丈夫、俺も前はそうだったぞ」と激励してくれた先輩方。

忘れないで下さい。あの人のあの言葉で、魂に情熱の灯が灯り、ここまで頑張り続けることができたことを。美しく咲いた花には大地の栄養を十分に吸収した根っこがあることを。そして、その根っこは普段見えないことを。

終わりに、選挙年齢が「18歳以上」に引き下げられ、皆さんは18歳で社会を構成する有権者となります。民主的で平和な国家の建設は国民一人ひとりの政治的意識と実践にかかっています。与えられた権利をしっかりと行使してほしいと思います。

ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユフザイさんは、今なお、命をかけながら精力的に平和活動を続けています。「自国を含め途上国での非人道的なことは私達の世代で終わりにしましょう。そしてこれは、私も、あなたも、みんなを変えていかなければいけないのです。」との国連本部での力強いスピーチは世界中を感動させました。今こそ平和を希求し続けたい時代なのです。

卒業生の皆さんが本校で培った生きる力を糧に、これからも弛まず夢実現に邁進することはもとより、「国際人として」遠い他国のことにも関心を持ち、世界の平和を希求し続け、幸多き人生を歩まれることを心から祈念して式辞といたします。

指導者の心に火が灯らなければ、選手の心に火は灯らない。(能代工高バスケ元監督 加藤廣志氏)